

平成26年6月定例会市議会市政報告

平成26年第3回釧路市議会6月定例会の開会にあたり、2月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は、「姉妹都市ホルムスク市訪問団の来釧」についてであります。

姉妹都市でありますロシア連邦サハリン州のホルムスク市から、ナザレンコ市長を団長とした4名の訪問団が5月28日から31日までの日程で来釧されました。

ホルムスク市長の訪問は、平成12年以来14年振りであり、29日に多くの議員の皆様、職員が迎える中で歓迎式を行うと共に、多くの市民の皆様の参加のもと、歓迎レセプションを開催いたしました。

ホルムスク市は、紙・パルプ、港湾を基幹産業とし都市の性格が釧路市に類似していること、また戦前、真岡（まおか）という日本人が住む街であったことから、1975年に姉妹都市提携を結んでおります。

来年には、姉妹都市提携40周年を迎えることから、関係団体とホルムスク市訪問について協議してまいりたいと考えております。

報告の第二は、「釧路フィッシャーメンズワーフMOO避難施設の供用開始」についてであります。

当施設は、去る4月5日に、軽スポーツが可能な多目的アリーナの機能を併せ持つ、津波の緊急避難施設としてオープンいたしました。

オープン当日は、セレモニーとあわせ、3年前から若年者の生活習慣病の予防対策としてダンスを取り入れた事業の講師をご依頼しているTRFのSAM氏をお招きし、市民の健康づくりを目的としたダンスイベントを行い、約340名の市民の皆様にお集まりいただきました。

オープンから今日まで、軽スポーツや親子で遊べる場として多くの市民の方にご利用いただいております。

報告の第三は、「阿寒国立公園指定80周年記念シンポジウム」についてであります。

1934年に、国立公園として指定され、本年で80周年を迎えることから、去る5月26日に環境省と阿寒国立公園広域観光協議会の共催で、阿寒湖アイヌシアターイコロにおいて記念シンポジウムを開催いたしました。

当日は、星野一昭 環境省自然環境局長より「阿寒国立公園の利用推進と地域再生」についてご講演をいただいたほか、パネルディスカッションでは、自然体験、アイヌ民族の文化、個性的な食資源と食文化、国立公園のおもてなし向上について、活発な討論がなされたところです。

市といたしましては、今後も環境省や関係自治体と連携を取りながら、世界に誇りうる素晴らしい自然環境の保全やアイヌ文化の普及啓発等に努めるとともに、地域の食をはじめ、魅力ある体験プログラムの企画や提供を進め、多くの方に阿寒国立公園の魅力をさらにPRして参りたいと考えております。

報告の第四は、「**緑ヶ岡公園のオープン（部分供用開始）**」についてであります。

平成27年の完成を目指し平成21年度より整備しておりました緑ヶ岡公園につきましましては、この度、主要施設であるパークゴルフコースをはじめ、園路・広場、トイレ、休憩施設等が完成し、6月29日（日）午前10時より、市と地域町内会によるオープンセレモニーを行い、翌日より、一般利用を開始いたします。

緑ヶ岡公園は、平成27年度まで整備を継続する予定であり、地域の核となる公園として、市民の皆様をはじめ、多くの方々に利用していただきたいと考えております。

報告の第五は「**韓国におけるチャーター便就航等の要請行動**」についてであります。

大韓航空の子会社であるジンエアーが、この夏のソウル―釧路便に前向きとの情報を得ましたことから、4月25日、釧路商工会議所、釧路観光コンベンション協会とともに、ソウル特別市を訪問し、チャーター便の誘致活動を行ってまいりました。

今回の訪問では、大韓航空とジンエアーに加え、最近、北海道への路線就航に積極的なティーウェイ航空のほか、韓進（はんじん）観光、ハナツアーといった大手の旅行会社を訪問し、釧路へのチャーター便運航について有意義な情報交換をすることができました。

こうした中、ジンエアーより7月23日（水）から8月9日（土）までの間に、全6往復のチャーター便を運航する旨の報告をいただいたところでありませぬ。

客船沈没事故の影響により観光などの自粛ムードが広がる中、日本側からの

送客についても期待されているところであり、釧路発の旅行商品の造成など、利用促進に取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第六は「**中央消防署愛国支署の移転新築・文苑分団の新設**」についてであります。

効率的な消防体制の確立と地域防災力の向上を図るため整備を進めてまいりました、愛国支署と新橋支署を移転統合した新しい愛国支署並びに本施設に併設された市内で18番目の新設分団となる「文苑分団」が、4月1日から供用を開始し、消防隊・救急隊合わせ33名、新設分団員17名の体制でスタートしたところです。

本施設は、大規模な津波発生時には、3階の屋上を開放し、地域住民の一時避難場所として活用していただくことも可能となっております。

平時から常に大規模災害などの非常時に備えた災害に強いまちづくりに取り組み、「安心して暮らせる都市づくり」を進めてまいりたいと考えております。

報告の第七は「**アミメキリンのメスの導入と歓迎イベントの開催**」についてであります。

釧路市動物園にキリンを贈るため、チャイルズエンジェルの皆様が始めた募金活動は、多くの市民の皆様の賛同と協力のもと、昨年、オスのキリンを贈呈いただいたところであります。

この度のアミメキリンのメスの導入につきましては、若いオスのアミメキリンを所有していることが、好材料となり、5月14日、東京都羽村市動物公園から、繁殖のための貸与を受けたところであります。

6月1日のイベントでは、チャイルズエンジェルの皆様をはじめ多くの関係者の方々の協力を得て約2,600人も多くの来園者にお越しいただくことができました。

報告の第八は「**新図書館整備の検討状況**」についてであります。

新図書館の設置に当たりましては、幅広く市民意見をいただきながらその機能等の検討を行うため、図書館協力団体、学識経験者、市民活動団体等や市民公募の皆様からなる委員22名による、「新図書館整備市民検討委員会」を設置し、図書館機能と図書館基本計画の見直しについてご意見をいただくことといたしました。

今後、検討を重ね、9月に新図書館への提言をいただき、新図書館整備へ反

映してまいりたいと考えております。また、年内を目処に図書館基本計画の見直しについて提言をいただくこととしております。こうした検討内容につきましては、ホームページ、図書館関係施設、市役所において速やかに議事録を公開し、広く市民の皆様へお知らせすることとしております。

また、広く市民の皆様からご意見をいただくため、無作為抽出した18歳以上の一般市民1,000名と4年生以上の小学生、中高生を対象としたアンケート調査を実施しております。

新図書館整備に当たりましては市内の連携も重要と考えており、「新図書館整備検討チーム」を立ち上げ、さらには、関係各課とも情報共有を図りながら、しっかりと進めてまいりたいと考えております。

報告の第九は、「**阿寒診療所の診療開始**」についてであります。

市立釧路国民健康保険阿寒病院につきましては、昨年度策定した新改革プランに基づき、4月1日から市立釧路国民健康保険阿寒診療所として、新たな体制で診療を開始いたしました。

阿寒診療所につきましては、これまでの診療科目を継続しつつ、病床規模を見直すことにより、地域唯一の入院機能を持つ医療機関としての役割を果たしながら、経営の効率化を図っております。今後は、地域住民の利用を促す取組を進めるなど、経営改善に取り組み、新改革プランの達成に努めてまいりたいと考えております。

報告の第十は、「**平成25年度各会計の決算状況**」についてであります。

収入の確定が6月上旬となりますことなどから、現時点での見込みの数値により報告をいたします。

はじめに、一般会計につきましては、平成25年度の決算にあたり、専決処分により減債基金に10億円を積立てた結果、歳入総額約955億9,000万円、歳出総額約950億4,000万円となり、形式収支は約5億5,000万円の黒字となる見込みであります。

これは、歳入で、各種事業の執行に伴う国庫支出金や市債など、繰越明許費を含めて約102億3,000万円の収入不足となったものの、歳出において、貸付金の減並びに工事契約差金や内部管理経費の節減などにより執行残が繰越明許費を含めて、収入不足分を上回る約107億8,000万円となったことによるものであります。

なお、決算剰余金の使途につきましては、繰越明許費に充当する一般財源約

7,000万円のほか、今後の補正財源として効果的に活用してまいりたいと考えております。

特別会計につきましては、国民健康保険会計で、国からの調整交付金の増や保険給付費が予算を下回ったことなどから、約1億円の剰余金が生じる見込みであり、国民健康保険事業支払準備基金に積立てをいたします。

介護保険会計の保険事業勘定では、国及び支払基金交付金の超過受納などから、約2億9,000万円の剰余金が生じる見込みであり、返還金の補正財源約9,400万円を含め、介護給付費準備基金に積立てをいたします。

国民健康保険音別診療所会計ほか、他の特別会計につきましては、概ね収支均衡する見込みとなっております。

報告第十一は、「**工事発注状況**」についてであります。

本年度の建設事業の発注予定額は、約119億1,000万円となっており、5月31日現在における発注済額は約46億1,000万円であり、発注率は、およそ38.7%となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約33億2,000万円、率では約72.2%であります。今後とも地域経済の動向を念頭に置き、工事の早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。